

I 世界の諸都市と比較した東京の魅力

1 世界の都市と比較した東京のランキング

◆ 都市ランキングベスト 10

都市の競争力が国家の成長を牽引する原動力となるといわれるなか、世界の様々な機関が、都市の力を計測し、都市ランキングとして発表しています。ここでは、東京を始めとした世界の都市が、国際的な視点からどのように評価されているのかについて紹介します。

★★★ 都市ランキング BEST10 ★★★				
作成機関	森記念財団 GPCI-2012 ¹	A.T.カーニー GCI2012 ²	EIU及びシティグループ GCCl2012 ³	MONOCLE QoL2012 ⁴
1位	ロンドン	ニューヨーク	ニューヨーク	チューリッヒ
2位	ニューヨーク	ロンドン	ロンドン	ヘルシンキ
3位	パリ	パリ	シンガポール	コペンハーゲン
4位	東京	東京	香港	ウィーン
5位	シンガポール	香港	パリ	ミュンヘン
6位	ソウル	ロサンゼルス	東京	メルボルン
7位	アムステルダム	シカゴ	チューリッヒ	東京
8位	ベルリン	ソウル	ワシントンD.C.	シドニー
9位	香港	ブリュッセル	シカゴ	オークランド
10位	ウィーン	ワシントンD.C.	ボストン	ストックホルム

MONOCLE からは、東京は世界の四大都市のなかで、唯一ヨーロッパの都市と並び、住みやすい都市として評価されています。また森記念財団など他の機関からは、世界四大都市として並び称されるだけの都市力を有している都市であると評価されています。

～ 各都市ランキングの紹介 ～

森記念財団 GPCI-2012

『都市の魅力を総合的に評価』

森記念財団都市戦略研究所により 2008 年から毎年発表されています。国際的な都市比較を定期的に作成している日本唯一の機関であり、グローバルシティに係る世界的権威が参加しているため信頼性があります。産業や経済だけでなく、文化や生活の観点からも着眼した分析を行い、都市の磁力=総合力としてランク付けを行っています。対象都市数は 40 となっています。

A.T. カーニー社 GCI2012

『多角的に都市のグローバル度を評価』
「GCI」は、世界的なコンサルティング会社の A.T.カーニー社とシカゴ国際問題評議会の共同調査によって、グローバル化とは国家から都市間ネットワークへのパワーシフトであるというコンセプトのもとに、2008 年から隔年で発表されるランキングです。「GCI」は 66 の都市を対象としています。2012 年からはグローバル都市の分析の他に新興都市アウトロック (ECO) も実施されています。

EIU・シティグループ GCCl2012

『世界トップレベルの人材が集まる都市を見つけ出す』
「GCCl」は、グローバル金融業のシティが、市場競争力の理解を深め、今後成長が期待でき、優良な人材が集まる都市を見つけるための調査として、ザ・エコノミスト・グループのビジネス情報部門のエコノミスト・インテリジェンス・ユニットへ委託して作成しているランキングです。

8種類の分野と 31 の指標により総合的な評価を行っています。対象都市数は 120 と非常に多くなっています。

MONOCLE QoL2012

『生活者の視点から暮らしやすさに着目』

グローバル情報誌「MONOCLE」が毎年誌上で発表している都市ランキングで、世界で最も住みやすい 25 の都市をランク付けています。

「MONOCLE」ではその都市に何が構築され、何が機能しているのかを根幹においています。また、世界各国に派遣されたライターによる先見的かつユニークな視点で分析を行っています。

¹ GPCI-2012=Global Power City Index 2012

² GCI2012 =Global Cities Index

³ GCCl2012 =The Global Cities Competitiveness Index 2012

⁴ QoL2012 =Quality of Life 2012

◆ 各都市ランキングによる分析

GPCI-2012（森記念財団） 「世界の都市総合力ランキング」による分析

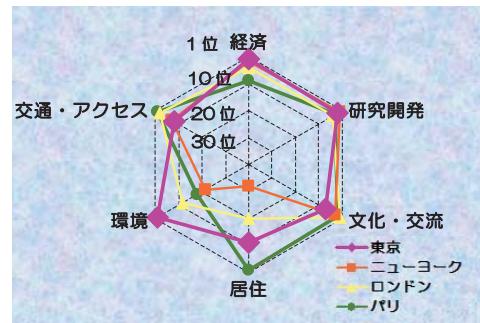
GPCI-2012における分野別総合都市ランキングでは、東京は2012年も4位と、2008年から5年連続4位となっています。東京は東日本大震災後の外資系企業の撤退や観光客の減少等の影響が危惧されていましたが、順位に変わりはなく、都市の総合力を改めて証明したといえます。また2011年と同様に、都市ランキングトップ4都市のうち、全ての分野（下表参照）においてバランスのよさ・総合力を発揮しています。2012年の結果の中で東京が最も大きく変化したことは、環境分野において2011年の6位からトップへと上昇したことです。上昇の要因としては「リサイクル率」、「CO₂排出量」、「水質」などの指標での評価が高まつことが挙げられています。総合順位で2012年は、昨年まで1位を維持してきたニューヨークを抜いてロンドンが1位となりました。2008年からスタートした本ランキングでは、これまで1位から4位までに含まれる都市に変動はありません。



【比較アター】（東京の順位）
経営者（7位）
研究者（2位）
アーティスト（3位）
観光客（6位）
生活者（3位）

【比較分野】 (東京の順位)	【指標例】
◆経済 (1位)	GDP・完全失業率・法人税率
◆研究開発 (2位)	世界トップ200大学
◆文化・交流 (7位)	ハイクラスホテルの客室数・貢物の魅力・食事の魅力・海外からの訪問者数・留学生数
◆居住 (11位)	物価水準・災害に対する脆弱性・人口密度
◆環境 (1位)	再生可能エネルギーの比率・リサイクル率・水質・都心部の緑被状況
◆交通・アクセス (8位)	都心から国際空港までのアクセス時間・国際線直行便就航都市数・国際線旅客数・公共交通の充実正確さ

【 分野別順位によるチャート 】



【 上位トップ3のそれぞれの特徴とは・・・ 】

1位：ロンドン

『五輪開催の効果を発揮』

2011年の2位から、ニューヨークを抜いて初めて1位を獲得しました。ロンドンの成長は著しく、2012ロンドン五輪開催に向けて国際会議やプレイベント等の開催に取り組んだことや、それに伴う宿泊施設の整備や海外旅行者の誘致がデータに反映されています。特に文化・交流分野については2位を大きく離してトップとなっています。

2位：ニューヨーク

『研究開発分野が強み』

2008年から常に1位に位置していましたが、2012年に初めてロンドンに抜かれて2位になりました。しかし、これはニューヨークの総合力が減退したわけではありません。特に研究開発分野においては2011年と同様に他都市を寄せ付けない強さがあり、世界的なトップを維持し続けています。

3位：パリ

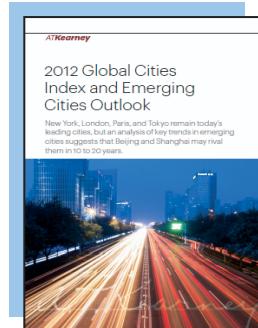
『アーティストに人気の都市』

文化交流・居住・交通アクセスの分野についてはスコアが高く、“芸術の都”“華の都”といわれるよう、アーティストや生活者からの評価が高いという結果が出ています。ただし今後、欧州経済危機への対応による影響が懸念されています。

GCI 2012 (A.T.カーニー) 「 Global Cities Index 」による分析

GCI 2012 では、前回 2010 年調査に続いてニューヨーク・ロンドン・パリ・東京の四都市が上位 4 位までを占め、東京は 4 位（2008 年 4 位 2010 年 3 位）でした。東京は世界規模のビジネス拠点としての魅力度を計る、「ビジネス活動の分野」において、2010 年の 2 位からニューヨークを抜き 1 位となりました。

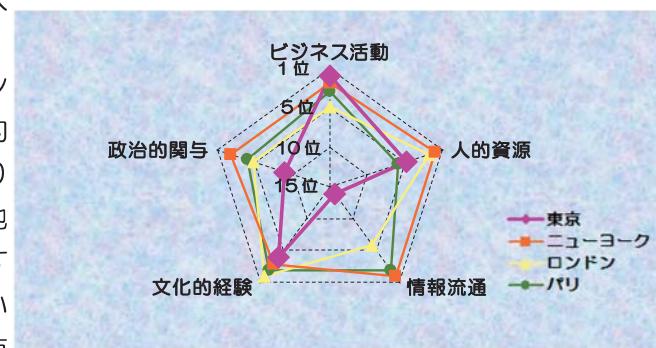
【比較分野】(東京の順位)	【指標例】
ビジネス活動 (1位)	グローバル企業の本社数、国際会議室数、港湾や空港を通過する物流量など
人的資源 (5位)	大学の数、インターナショナルスクールの数、海外からの留学生の数、大学卒の人口など
情報流通 (14位)	主要TVニュースチャンネルへのアクセス、インターネットのプレゼンス（検索での都市名ヒット数）、国際ニュースの支局数など
文化的経験 (4位)	美術館数、劇場数、主要スポーツイベントの数、レストランの多様性、海外からの旅行者数、姉妹都市数など
政治的関与 (9位)	大使館や領事館の数、主要シンクタンクの数、国際機関の数、国際活動を行う地元組織の数、国際政治会議の主催数など



総合順位が中位以上の都市間において、各指標を積み上げたスコアの差が一番大きく出た比較分野は「政治的関与」です。これは一部の都市に国際的な組織やシンクタンク、国際的な政治会議などの世界的活動の大部分が集中していることによります。情報流通分野については、東京は他の大都市よりも順位は低くなっていますが、スコアの差は全比較分野の中で最も小さくなっています。多くのグローバル都市においてブロードバンドの普及率やメディアの支局数が同じレベルにあることは、情報が世界的にフラット化してきていることを示しています。

今後の予測として、10 年から 20 年先には北京や上海が現在上位の都市のライバルに成長すると分析しています。

【 分野別順位によるチャート 】



【 上位トップ3のそれぞれの特徴とは・・・ 】

1位：ニューヨーク

『全ての分野で高評価』

ニューヨークは総合的に高いスコアを得ていますが、なかでも人的資源と情報流通の分野で最も高い評価を受けています。

2位：ロンドン

『人的資源・文化的経験に強み』

ロンドンもニューヨークに続き、総合的に高いスコアを得ていますが、なかでも文化的経験や人的資源の分野で最も高い評価を受けています。

3位：パリ

『文化的経験に強み』

ニューヨーク、ロンドンに続いて総合的に高いスコアを得ていますが、なかでも文化的経験の分野は前回に引き続き2位を維持しています。

GCCI (EIU 及びシティグループ) 「 HOT SPOTS : BENCHMARKING GLOBAL CITY COMPETITIVENESS 」による分析

GCCI 2012 では、東京は6位でした。東京は公共交通機関の質が高いことや、国際的な金融基盤が強固であることなどが特に評価されています。GCCI では下表にあるように8種類のカテゴリー別にそれぞれ世界都市競争指数を点数化してスコアを算出しています。アジア地域の中でシンガポール（3位）と香港（4位）が上位にランク付けされている理由は金融機関の集積や政府・制度の有効性が非常に高く評価されているためです。

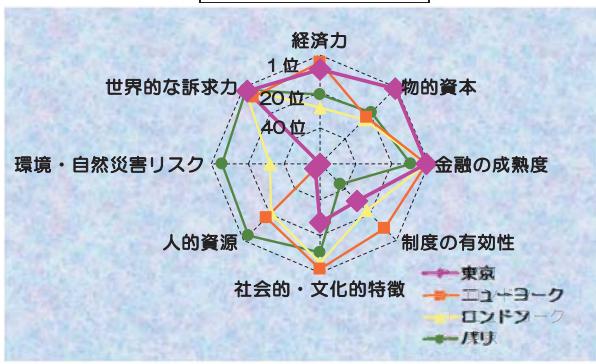
【比較分析】(東京の順位)		【指標例】
経済力 (8位)		購買力平価 (PPP) 換算の名目域内総生産 (GDP) 、1人当たりGDP (PPP換算) 、年間1万4,000ドル (約110万円、PPP換算) 以上を消費する中間層の割合、2010～16年の予想GDP成長率、地域経済の統合度
物的資本 (1位)		インフラストラクチャーの質、公共交通機関の質など
金融の成熟度 (1位)		国際的な金融基盤の規模の大きさ
制度の有効性 (31位)		法の規制度など
社会的・文化的特徴 (28位)		表現・人権の自由度、犯罪率など
人的資源 (56位)		人口増加、生産年齢人口、教育の質、外国籍者の採用者数など
環境・自然災害リスク (60位以内)		自然災害の危険度など
世界的な訴求力 (3位)		世界トップ500社の数、国際的なシンクタンクの数など



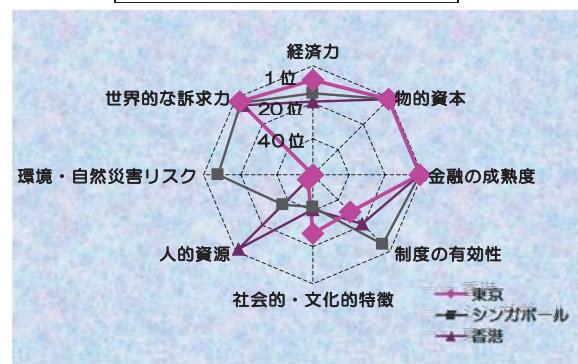
また、アジア地域の新興国（特に中国の天津・大連など）の諸都市による経済的台頭は目覚ましく、これらの都市では今後の予測においても、これから2016年までに毎年最低5%の成長が見込まれており、そのうち12都市は最低10%成長すると分析されています。これに対し、ニューヨークやロンドンなどの欧米の都市では、人的資源の分野で優勢であり、世界トップクラスの人材確保や能力開発を進めており上位を維持しています。

【 分野別順位によるチャート 】

四大都市圏の比較



アジア上位3都市圏の比較



【 上位トップ3のそれぞれの特徴とは・・・ 】

1位：ニューヨーク

『金融・メディア・ファッショなど多様性を評価』
ニューヨークは金融の成熟度、社会的・文化的特徴、物的資本の分野で高得点となっています。また、メディアや芸術、ファッション、テクノロジー、金融を中心とする経済の多様性などが強みとして挙げられています。

2位：ロンドン

『世界的な訴求力が最も強い』
ロンドンは世界的な訴求力、社会的・文化的特徴、物的資本の分野で高得点となっています。その他の分野においても、1位のニューヨークと同様に、全体として高いスコアを得ています。

3位：シンガポール

『世界の企業が進出しやすい都市』
シンガポールは物的資本、金融の成熟度の分野で高得点となっています。また、税制の優遇措置や、許認可の合理化による世界の企業誘致、さらに、以前からの厳しい環境規制により、清潔で良好な都市環境を維持していることなどが強みとして挙げられています。

QoL2012 (MONOCLE)

「世界で最も住みやすい 25 の都市ランキング」による分析

2012 年、東京は 7 位 (09 年 3 位、10 年 4 位、11 年 9 位) でした。MONOCLE では MONOCLE ならではのユニークかつ先見的な視点（例えば、感じの良いバーがあること・ショッピングを満喫できるように営業時間が設定されていること・緑地までのアクセスが便利であることなど）から評価されています。

その他の具体的な比較分野及び指標は右下表のとおりです。

東京が高評価を得ている点は

- ・高い水準の公共交通
- ・公道の高い整備率
- ・レストラン・ショッピングの充実
- ・静かな裏通りと下町情緒溢れる市民性
- ・低い犯罪率
- ・羽田空港の国際線開業に伴う利便性の向上
- ・人々の勤勉性や礼儀正しさ

などでした。

東京は世界有数の大都市でありながらも、ヨーロッパの都市などと同様の住みやすさを兼ね備えていることがわかります。

この他に、京都は 11 位、福岡は 12 位と日本国内 3 都市が 15 位圏内に入っていることも特筆されます。



【 上位トップ 3 のそれぞれの特徴とは・・・】

1 位 : チューリッヒ

『利便性の高い空港と豊かな自然』

申し分のない空港アクセス・繁華なアートシーン・豊富な公園・泳ぎを楽しめる湖があることなどが高評価へつながっています。

2 位 : ヘルシンキ

『素晴らしい居住環境』

昨年は 1 位でした。創造的であること、新しい企業家精神にあふれていること、世界の最良の居住環境のうちの 1 つであることが評価されています。

3 位 : コペンハーゲン

『高度な都市計画』

建築物、デザイン、グルメ、網の目のように張り巡らされた交通網のような高度な都市計画などが評価されており、国連においても世界で最も幸福な人々はデンマーク人であると位置付けています。



【比較分野・指標例】

- | |
|--------------|
| ◆人口 |
| ◆犯罪率 |
| ◆失業率 |
| ◆教育（大学数、進学率） |
| ◆国際線の路線数 |
| ◆屋外プールの数 |
| ◆書店数 |

コ

ラ

ム

世界で最もクリエイティブな都市は東京である！

アドビシステムズ社は2012年4月、世界5か国における職場・学校・家庭でのクリエイティビティ（創造性）に関する意識調査を行い、世界におけるクリエイティブな国の1位は日本、また都市の1位は東京という結果を発表しました。この調査は、米国・英国・ドイツ・フランス・日本の18歳以上の成人5,000人を対象として行われました。

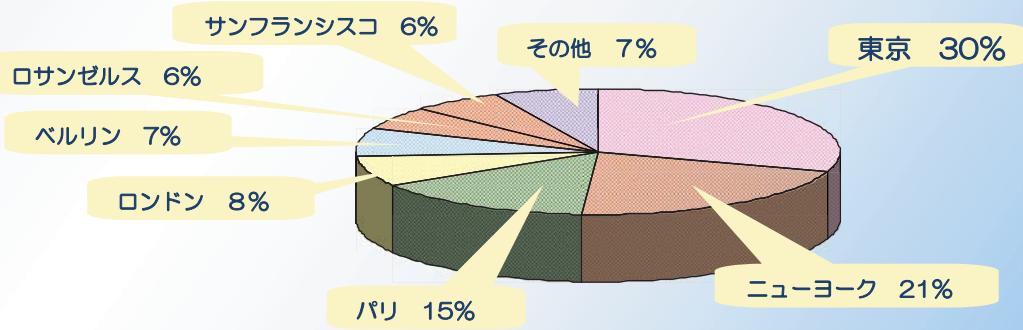
興味深いことは、日本と東京はともに1位にランク付けされたものの、日本人自体は自国を評価しておらず、米国・ニューヨークを1位としていました。日本・東京は日本人以外からの評価により結果的にトップに位置付けられたのです。



それに対して2位となった米国は自らを最もクリエイティブであるとし、英国、ドイツ、フランスの回答者においては自国とその都市が日本の次に最もクリエイティブであると考えています。

また、調査回答者の80%がクリエイティビティは経済成長にとって極めて重要であると回答しています。

Q. 世界で最もクリエイティブだと思う都市は？



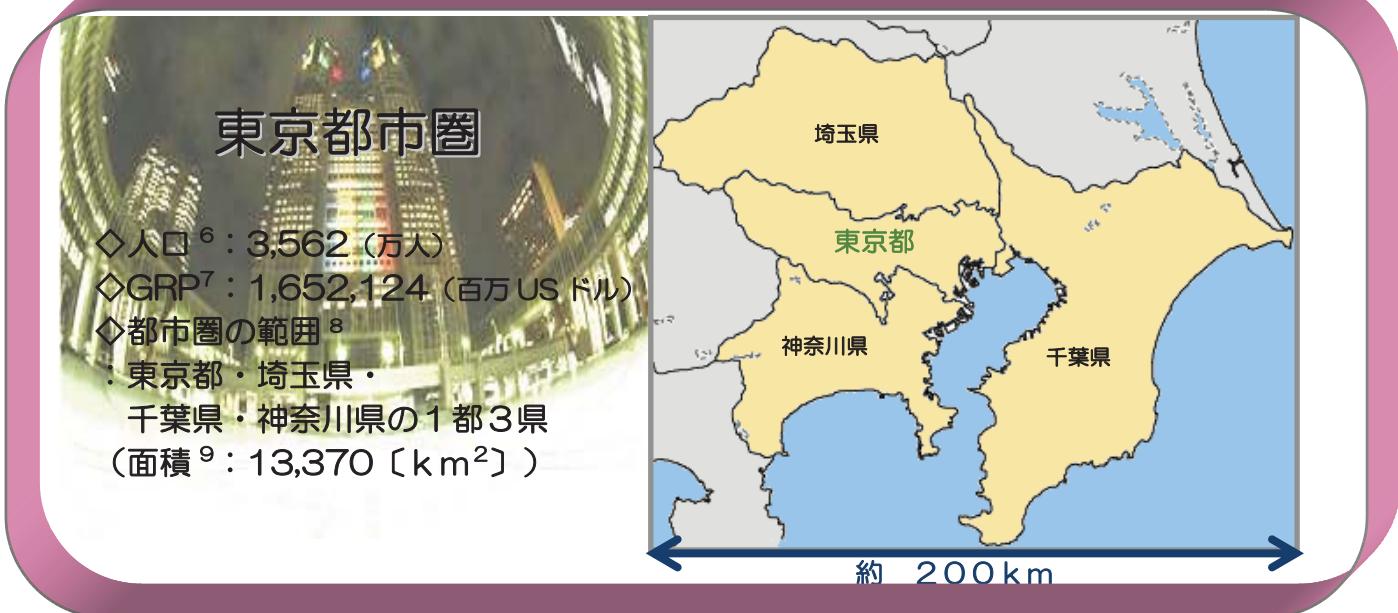
アドビシステムズ社

「Adobe State of Create グローバルベンチマーク調査」より作成

2 世界の中での東京の存在

グローバリゼーションにより激化する地球規模の都市間競争のなかで、東京は、現状においてどのような位置にあるのでしょうか。ここでは、東京と世界の各都市との比較を通じて、東京の持つ都市のポテンシャルや魅力について紹介します。

◆ 世界の四大都市圏⁵（東京、ニューヨーク、ロンドン、パリ）の人口・GRP の比較



⁵本分析においては、東京都という行政界にこだわらず、実際の都市活動が行われている東京圏を対象として、世界の各都市圏との比較をしている。また、各都市圏の人口・GRP・面積数値は2012年4月現在における最新のものである。

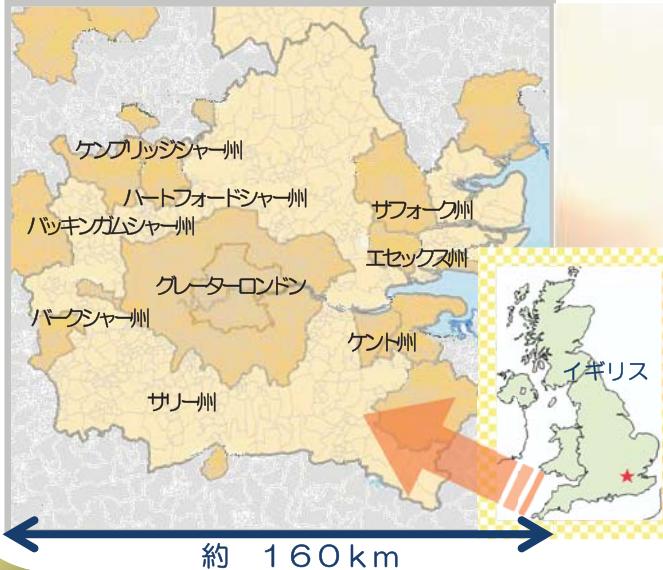
⁶各都市圏人口数値については日本：総務省 都道府県別人口、米国：United States Census Bureau、欧州：Eurostatに基づく。

⁷GRP（Gross Regional Product）とは都市の域内総生産のこと。上記のGRP数値については日本：県民経済計算、米国：BEA（Bureau of Economic Analysis）、欧州：Eurostatに基づく。GRPのUSドル換算はIMF International Statistics Yearbook 2011に基づく。

⁸東京都市圏の範囲は国土交通省が定めている東京圏、米国都市圏の範囲はUnited States Census Bureau、欧州都市圏の範囲はEurostatに基づく。

⁹各都市圏面積数値については日本：都道府県面積調、米国：United States Census Bureau、欧州：Eurostatに基づく。

【人口順位】 ①東京②ニューヨーク③ロンドン④パリ
 【GRP 順位】 ①東京②ニューヨーク③パリ④ロンドン
 ⇒ 東京都市圏の人口及びGRPは世界の四大都市圏の中で最も大きくなっています。



ロンドン都市圏

◇人口⁶：1,501（万人）
 ◇GRP⁷：377,099（百万USドル）
 ◇都市圏の範囲⁸：グレーターロンドンとその周辺の8州の一部
 （面積⁹：15,438 [km²]）



パリ都市圏

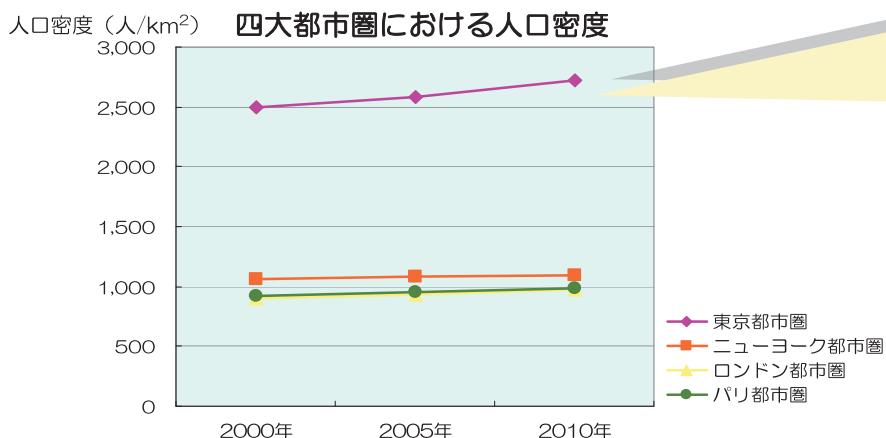
◇人口⁶：1,180（万人）
 ◇GRP⁷：402,899（百万USドル）
 ◇都市圏の範囲⁸：パリとその周辺の7県
 （面積⁹：12,012 [km²]）



◆ 東京都市圏の人口密度・GRP の特徴

ここでは東京都市圏の人口と GRP を分析します。

世界の四大都市圏における人口密度の比較
(2000 年～2005 年～2010 年の経年変化の分析)

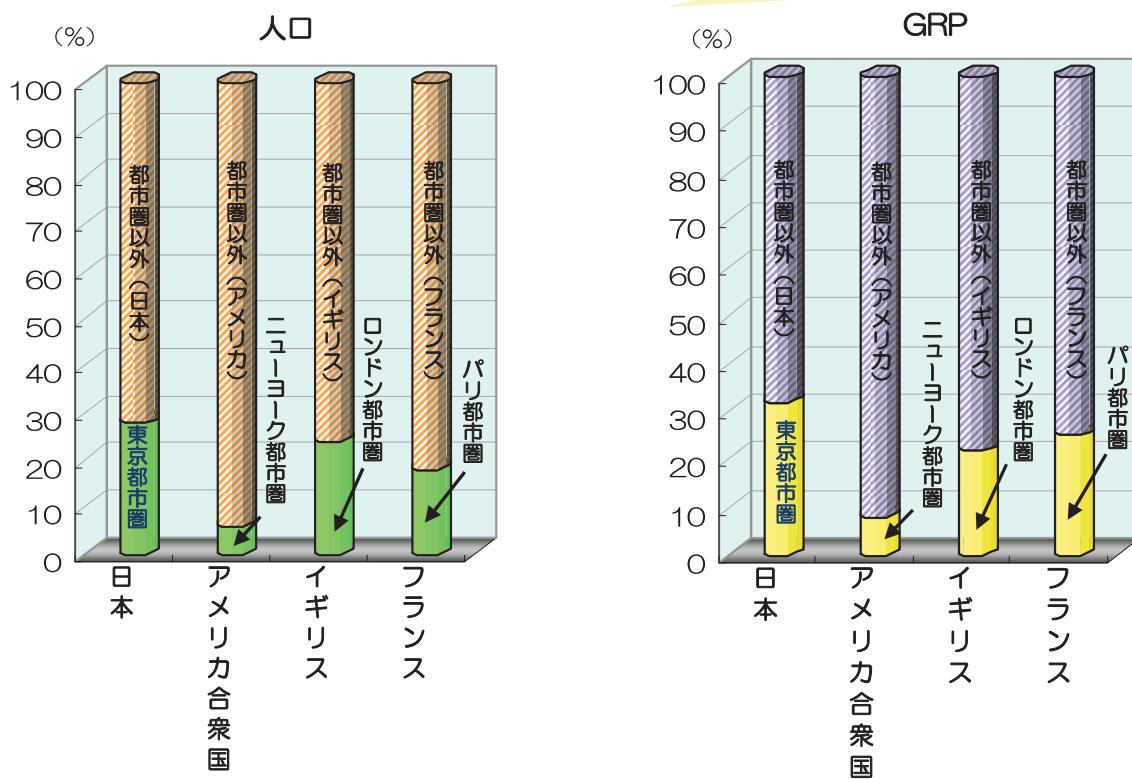


東京都市圏の人口密度は大都市圏の中でも圧倒的に高く、人口が集積していることが分かります。

続いて、四大都市圏のそれぞれの国内において、国内全体の人口及び GDP を 100%とした場合の各都市圏の集積割合を分析します。

各国内でのそれぞれの都市圏が占める人口及び GRP の集積割合の比較
(人口 : 2010 年 GRP : 2009 年の分析)

東京都市圏の人口・GRP ともに国内の約 30%が集積しています。また、東京都市圏の集積割合は他の大都市圏と比べて最も高い割合となっていることが分かります。

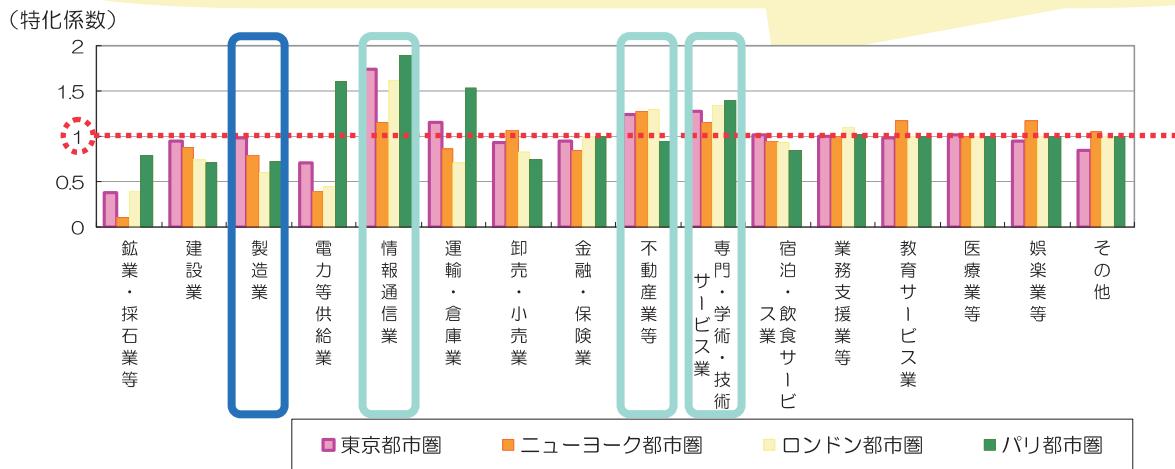


◆ 東京都市圏における産業の集積等の特徴

次に、東京都市圏を産業集積の面から四大都市圏と比較します。

世界の四大都市圏における事業所数ベースでの集積の比較

事業所数ベースでは、四大都市圏全てにおいて、情報通信業、不動産業等、専門・学術・技術サービス業等の第三次サービス業が集積しています。また製造業において、東京都市圏は他の都市圏と比べて集積度が相対的に高いことが分かります。



国土交通省「平成23年度首都圏整備に関する年次報告」より作成

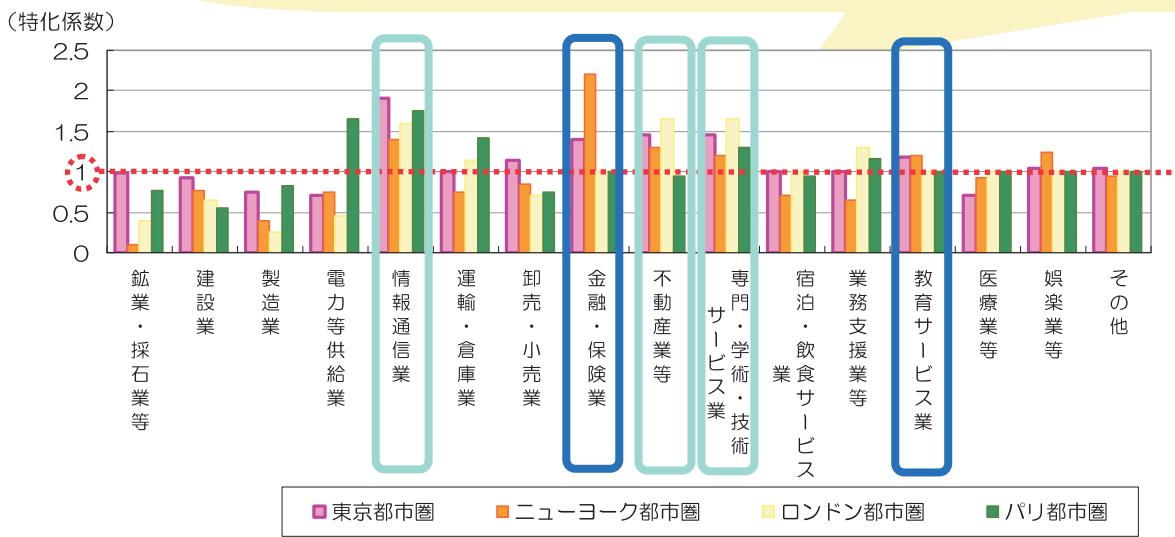
※特化係数が1より大きい場合は、その産業において当該都市圏のシェアが全国平均に比べて大きいことを示します。

(特化係数)

= (東京都市圏のA産業の事業所数 / 東京都市圏の全産業の事業所数) ÷ (全国のA産業の事業所数 / 全国の全産業の事業所数)

世界の四大都市圏における支払賃金ベースでの集積の比較

支払賃金ベースにおいても事業所ベースと同様、四大都市圏全てにおいて、情報通信業、不動産業等、専門・学術・技術サービス業の特化係数が高くなっています。東京都市圏においては、事業所ベースでは特化係数が低かった金融・保険業や教育サービス業が高くなっていることが分かります。



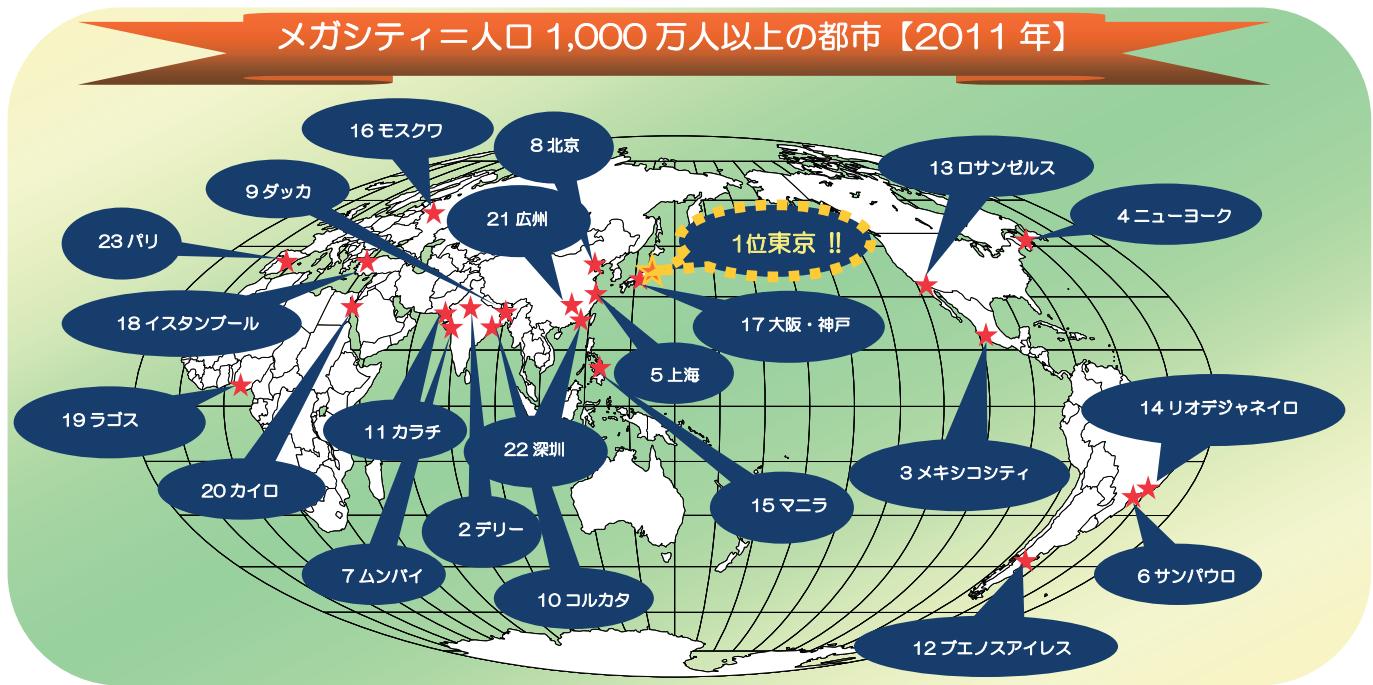
国土交通省「平成23年度首都圏整備に関する年次報告」より作成

(特化係数)

= (東京都市圏のA産業の支払賃金 / 東京都市圏の全産業の支払賃金) ÷ (全国のA産業の支払賃金 / 全国の全産業の支払賃金)

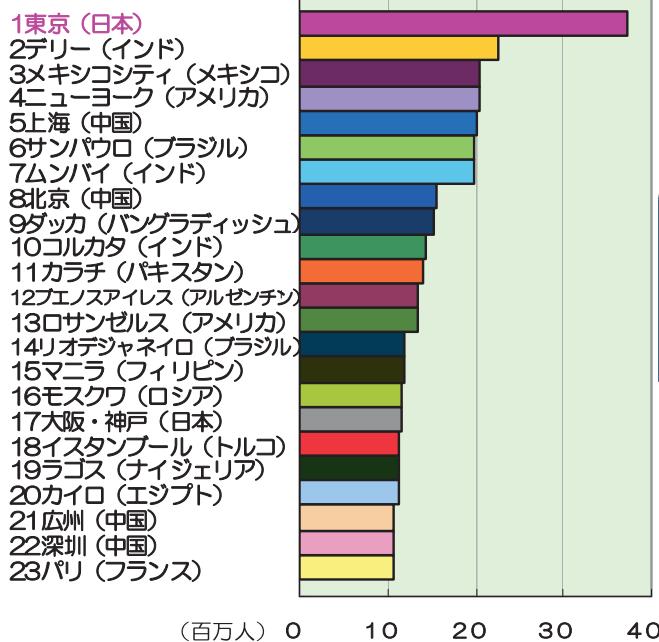
◆ 世界のメガシティ（人口 1,000 万人以上の都市）

メガシティ＝人口 1,000 万人以上の都市【2011 年】

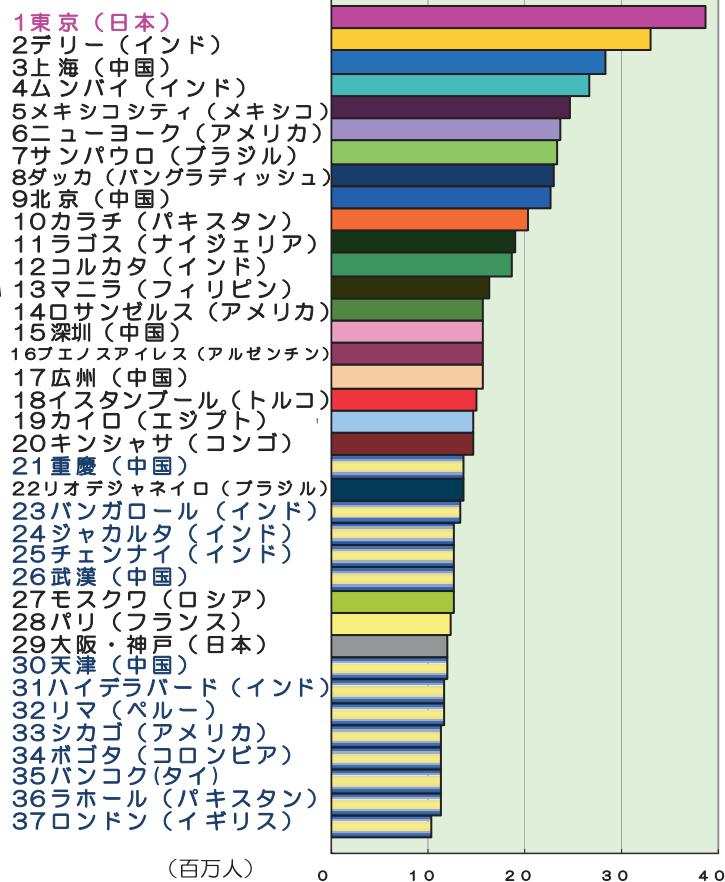


人口 1,000 万人以上の都市の人口ランキング¹⁰

2011 年



2025 年の将来予測



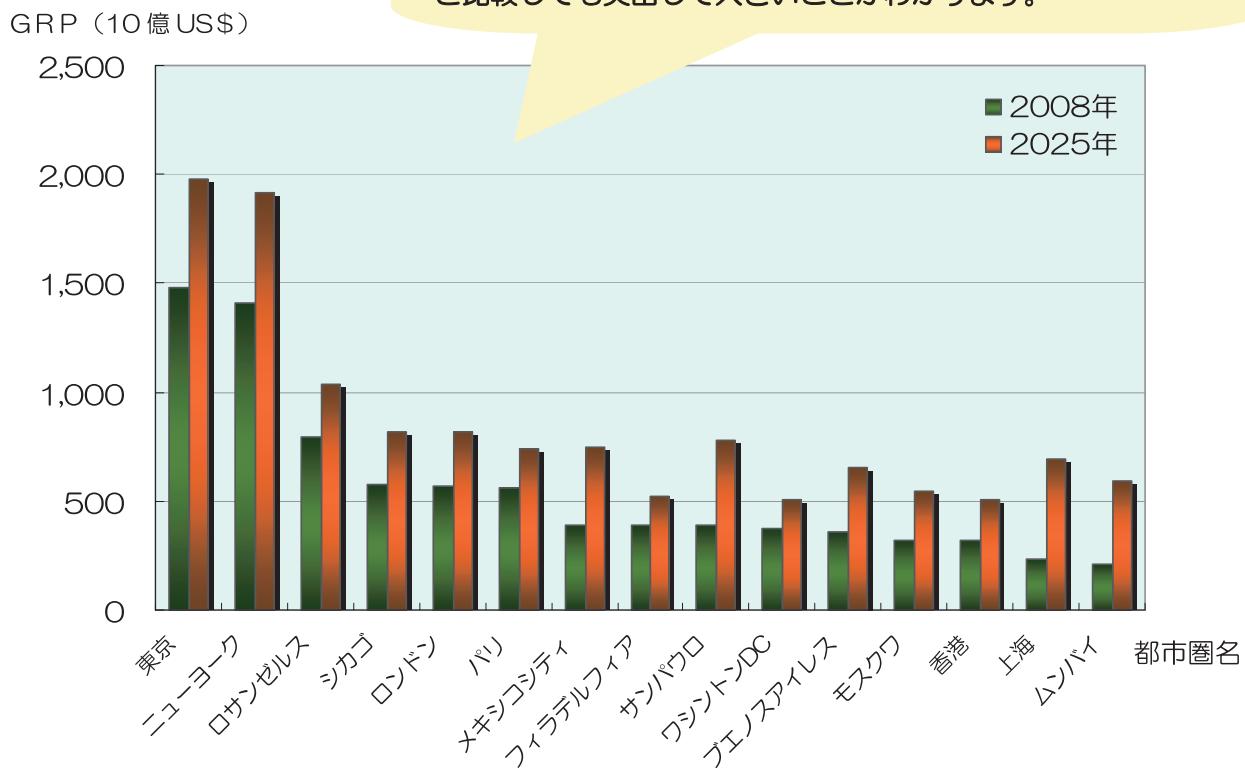
1950 年当時は東京とニューヨークの 2 都市のみだったメガシティの数は、現在 23 都市にまで増加し、2025 年にはさらに 37 都市に増加すると予測されています。

（青字は 2025 年までに新たにメガシティになると予測された都市です。）

国連資料「World Urbanization Prospects The 2011 Revision Highlights」より作成

(参考) メガシティにおける現状のGRP¹¹と将来予測

現状及び2025年の予測値において、東京都市圏のGRPはニューヨーク都市圏をもじのぐ世界第1位であり、他の都市圏と比較しても突出して大きいことがわかります。



PwC「UK Economic Outlook November 2009」
より作成



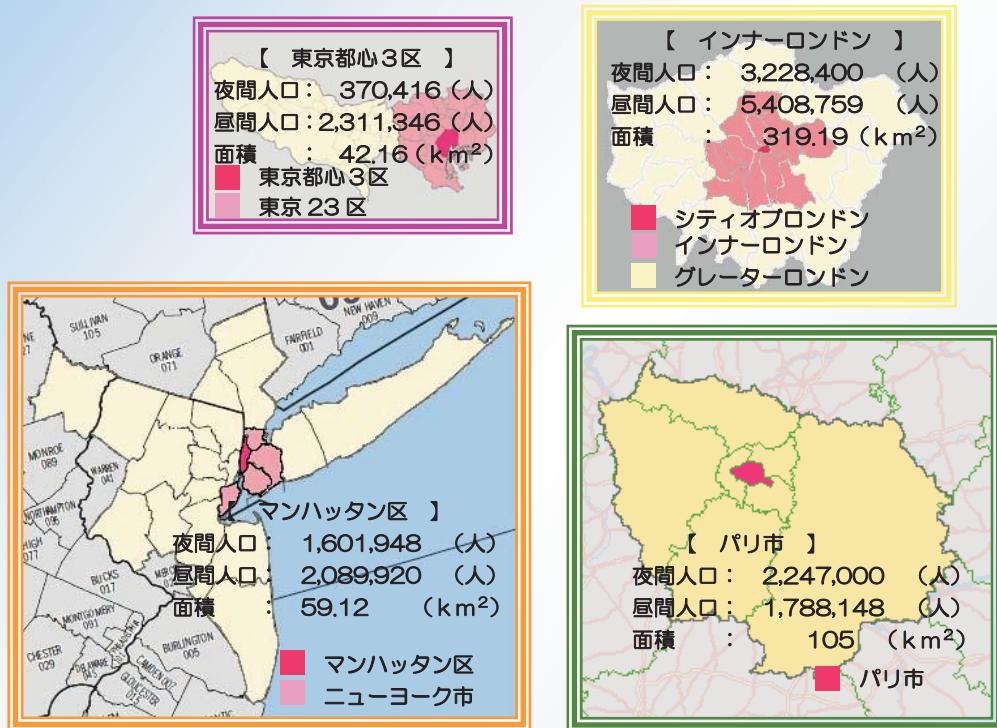
¹⁰P.13 の世界のメガシティのデータは国連によるものであり、各都市圏の範囲の定義は P.9 から P.12 までとは異なる。東京については総務省国勢調査の関東大都市圏（東京都・埼玉県・神奈川県・千葉県・茨木県・栃木県・群馬県・山梨県・静岡県のそれ一部）としている。

¹¹このGRP 数値はPwCによるものであり、各都市圏の範囲の定義は P.9 から P.12 までとは異なる。

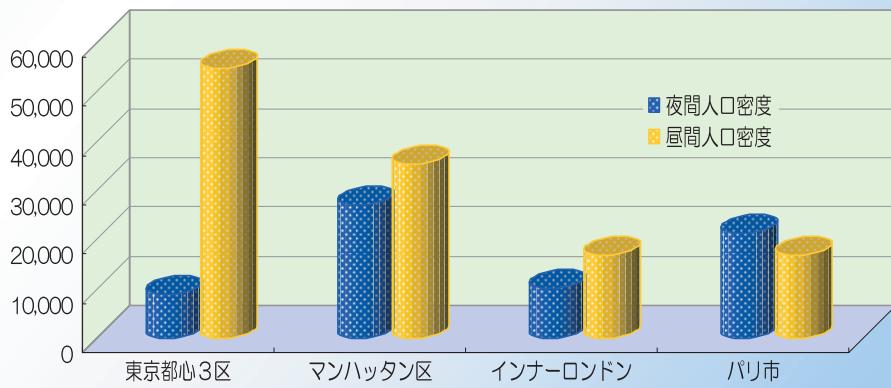
コラム

東京都心3区は圧倒的に昼間人口密度が高い！

ここでは都市圏単位に関係なく、主要な経済活動が展開され、多くの機能が集中する都心（＝Inner City）について比較してみました。



さらに上記の都心について人口密度¹²で比較すると、東京都心3区¹³はマンハッタン区、インナーロンドン、パリ市と比較しても特に昼間人口密度が高いことがわかります。

(人／km²)

¹² 人口密度の値は2012年4月現在における最新の各都市の人口・面積数値を基にして算出している。
それぞれの値の出典は以下のとおりである。

東京 23 区：総務省国勢調査（平成 22 年） ニューヨーク市：Community District Profile, NYC Department of City Planning
グレーターロンドン：ロンドン市公式ホームページ（国勢調査 2011 年） パリ市：フランス大使館

¹³ 都心3区＝千代田区・中央区・港区